

一般助成(障がいを持つ子どもたちや孤立する高齢者に対する支援)

## 「2021パラアート・フェスティバル」事業

### 障がい者に対する理解を深め、その芸術文化活動を支援することで共生社会の実現を目指す

どのような状況下にあっても、障がい者が文化や芸術活動を楽しめる環境を維持することは、障がいに対する社会的理解や障がい児・者の育成支援や社会参加支援にとって欠かすことができない。共生社会の実現に寄与するべく、障がい児・者の芸術作品やその活動を紹介するために国際交流展を開催した。



オンラインで作品を楽しむ「2021パラアート TOKYO ギャラリー」



書と絵画のワークショップの開催やリモートによる講習も実施

### 障がい者の芸術文化活動や社会参加への支援を35年以上にわたって継続する

公益財団法人「日本チャリティ協会」は、1966年の設立以来、福祉文化の育成振興を理念に掲げ、障がい者や高齢者に向けて多彩な事業を展開してきた。なかでも障がい者の芸術活動に力を入れ、『東京都障害者総合美術展』、『パラアートスクール』（障がい者を対象としたカルチャースクール）をはじめ、障がい者の芸術文化活動を推進するとともに、障がい者の社会参加への支援に35年以上にわたって取り組んできた。

こうした実績を踏まえ、スポーツの世界に「パラリンピック」という言葉があるように、芸術文化の世界にも「パラアート」という言葉を根付かせようと、2009年から障がい者の芸術活動に「パラアート」の呼称を使い始めるとともに、アジ

アからの国際的な発信と拡大を図るために、日本・中国・韓国を中心に『パラアート(障害者芸術)国際交流展』を開催してきた。

さらに、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催を好機と捉え、障がい者の文化の重要性を「パラアート」という呼称とあわせて国際的に周知・拡大するとともに、諸外国の障がい者との文化交流を支えることで芸術文化の育成に寄与することを目的に、「2021パラアート・フェスティバル」事業に取り組むことにした。コロナ禍という状況の中で「新しい生活様式」に即したものとなるよう、オンラインギャラリーや出前のワークショップ、リモートによる講習などを取り入れたほか、東京芸術劇場での展示会は感染症対策を徹底したうえで開催した。

### 東京オリンピック・パラリンピックに合わせパラアート国際交流展を開催

同事業のメインとなったのは、10月13日～17日にかけて東京都豊島区の東京芸術劇場ギャラリー1を会場に『「2021パラアート TOKYO」第8回国際交流展』を開催した。25か国1地域から出品された絵画と書の作品206点を展示し、期間中、のべ1,008人の見学者があった。

新型コロナ感染拡大の影響を受け、様々な制限があるなかでの事業実施となったが、パラアート賞、パラアート・ジュニア賞を設けたり、制作活動や発表の場をWEBに開設したりするなどして、障がい児・者の参加に対するモチベーションの向上を図った。また、新型コロナの影響で来日、来場いただけない出品者や関係者の方々、および世界の方々

のためにWEB上にオフィシャルページを開設し、そのバーチャルギャラリー内で会期終了後も全作品の鑑賞ができるような施策も行っている。

事業の関係者は、「この国際交流展を通じ、障がい者に対する理解を深めるとともに、障がいのある方々が芸術文化活動を通じて社会とより広く関わりを持つことで、お互いを尊重しながら共生社会を実現することに繋がっていくものと確認することができました」と、事業実施の手応えを話す。

会場に足を運んだ見学者からは、「豊かな感性と素晴らしい作品に感動した」、「色々な国の作品が集まり、パリエティに富んでいて楽しかった」という感想が寄せられた。



25か国1地域から出品された作品を展示した「「2021パラアート TOKYO」第8回国際交流展」



助成団体:公益財団法人 日本チャリティ協会

<https://www.charitykyokai.or.jp>



### パラアートに対するPOSCの意義ある支援に敬意を表します

共生社会の実現へ向けて、障がい者が社会とつながることが重要視されています。そのためには、障がい児に対する育成活動や障がい者の社会参加に対する継続的な支援が必要です。新型コロナの感染拡大により、閉鎖的になりがちな障がい児・者の方々の日常の活動維持に向け、POSCからの助成が大いに役立ちました。

公益財団法人 日本チャリティ協会  
事務局長 高木 渉さん